

**国立病院機構 相模原病院  
-令和7年度中心拠点病院事業総括-**

**独立行政法人 国立病院機構 相模原病院  
臨床研究センター長 海老澤 元宏**

## アレルギー中心拠点病院としての活動

### ●アレルギー疾患医療全国拠点病院連絡会議の開催

拠点病院との情報共有、意見交換を行い医療の均てん化を図り、広域的な研究体制を整備構築する。

### ●研修の実施（A・B・C／オンライン）

全国の拠点病院における医療従事者の育成を実地で行い、アレルギー疾患に関する医療の質の向上に努めた。また、遠隔地や社会的状況によりアレルギー中心拠点病院での研修が難しい医師に向けて、講義や手技を収めた動画を配信した。

### ●医療相談の実施（医師向け／患者向け）

医師向けには難治性症例の相談や拠点病院との連携支援を提供。患者向けには電話相談で悩みや不安に対応し、生活支援を図る。

### ●地方拠点病院の活性化

宮崎県へ月1回の診療支援を実施。

### ●臨床研究実績

### ●医療提供体制の課題（厚労科研）

### ●食物アレルギー研究会の運営

各種手引きおよび食物経口負荷試験実施施設一覧をWEB上で公開。年1回の研究会開催。

# A研修：相模原臨床アレルギーセミナー

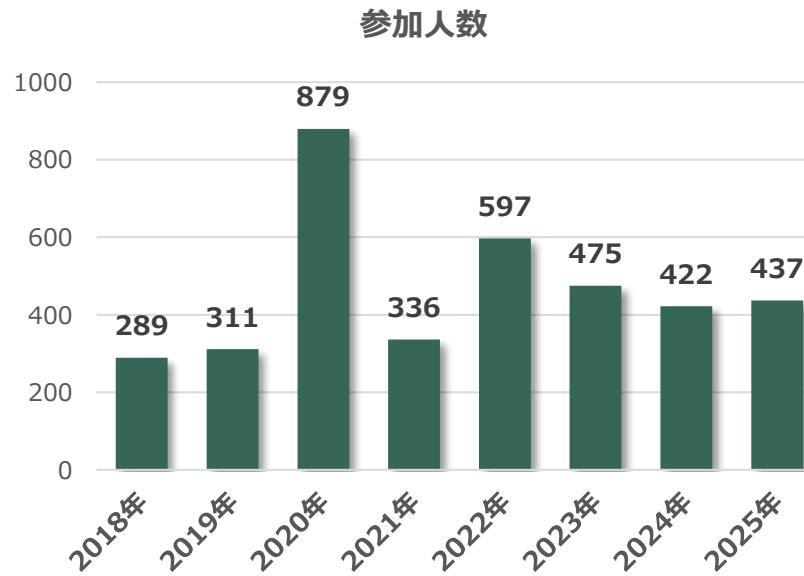
## 【設立経緯】

日本アレルギー学会WGの討議において、講習会形式での研修を相模原病院が担当となる。

## 【拠点病院の人材育成プラン】

国のアレルギー疾患対策基本法が制定され、厚労省と中心拠点病院（成育医療研究センターと国立病院機構相模原病院）が中心となり拠点病院の人材育成に関して検討。

当セミナーを第一段階の研修＝A研修に位置づけた。



○毎年400人以上が参加する国内最大のアレルギーセミナー

○2022年度 参加者 597名  
2023年度 参加者 475名  
2024年度 参加者 422名  
2025年度 参加者 437名

○2026年度もオンラインにて開催

【WEB配信期間】2026年8月3日(月)13時～8月31日(月)  
【受付期間】2026年4月6日(月)13時～7月15日(水)

# B研修：1.2週間の総合アレルギー研修

## 【2025年度 応募・実施状況】

○研修実施数 2名 (2025年12月現在) B研修への参加が容易になるよう、従来の2週間コースを短縮した1週間コースを設定している。

## 【研修 講義・実習内容】

### 研修内容 (成人 1週間)

	月	火	水	木	金
AM	9:00～ 施設案内 (事務担当者) 10:00～ <b>共通</b> 小児科見学	<b>共通</b> 皮膚科外来見学 食物経口負荷試験	<b>共通</b> 成人食物アレルギー外来見学	<b>共通</b> 小児アレルギー初診 外来見学 ・アトピー性皮膚炎 ・食物アレルギー ・気管支喘息 ・アレルギー性鼻炎	<b>共通</b> 食物経口負荷試験 栄養食事指導
PM	成人 講義 病棟カンファ	<b>共通</b> 皮膚科実習+講義 ・アトピー性皮膚炎・蕁麻疹・金属アレルギー等 ・パッチテスト  終了後 講義	成人 皮膚テスト実習 講義	成人 講義 実習等	成人 修了証明書授与 (事務担当者)

オンライン講義：  
成人・小児食物アレルギー、成人・小児喘息、ABPA、EGPA、AERD、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アナフィラキシーなど

### 研修内容 (小児 1週間)

	月	火	水	木	金
AM	9:00～ 施設案内 (事務担当者) 10:00～ <b>共通</b> 小児科見学	<b>共通</b> 皮膚科外来見学 食物経口負荷試験	<b>共通</b> 成人食物アレルギー外来見学	<b>共通</b> 小児アレルギー初診 外来見学 ・アトピー性皮膚炎 ・食物アレルギー ・気管支喘息 ・アレルギー性鼻炎	<b>共通</b> 食物経口負荷試験 栄養食事指導
PM	小児 食物経口負荷試験 皮膚科実習+講義 ・アトピー性皮膚炎・蕁麻疹・金属アレルギー等 ・パッチテスト  終了後 講義	<b>共通</b> 小児アレルギー外来見学	<b>小児</b> 食物経口負荷試験 小児アレルギー外来見学 ※講義	<b>小児</b> 食物経口負荷試験 小児アレルギー外来見学 ※講義	成人 修了証明書授与 (事務担当者)

オンライン講義：  
成人・小児食物アレルギー、成人・小児喘息、ABPA、EGPA、AERD、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アナフィラキシーなど

## ● 処遇および業務

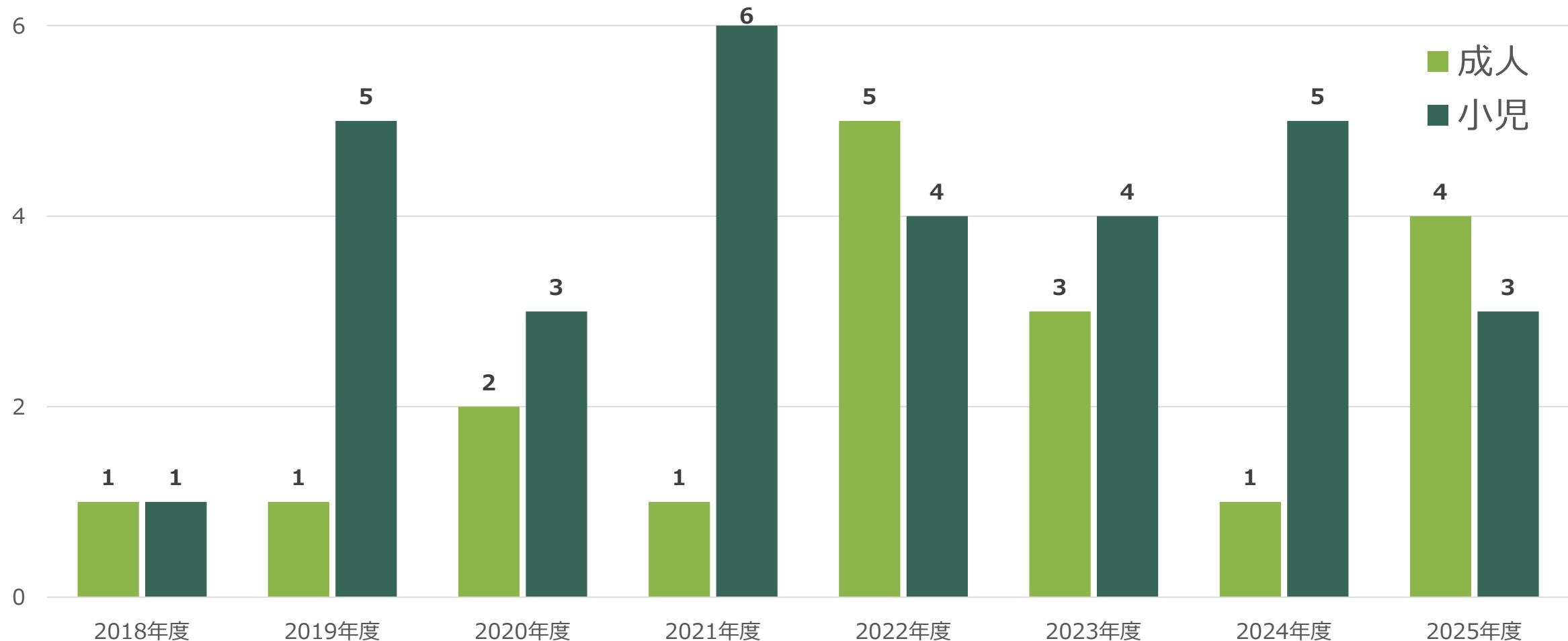
- ・ 小児科あるいはアレルギー・呼吸器内科レジデントとしての病棟および外来業務
- ・ 臨床研究センター非常勤研究員（併任）としての臨床研究業務
- ・ 長期研修であれば、当院勤務しながら学位取得も可能  
　順天堂大学連携大学院 制度利用（5年以上在職できる場合・入学試験あり）

## ● 今後の募集案内

- ・ C, D研修とともに、次年度4月より最低1年間（**前年度8月末までに要連絡**）
- ・ C, D研修は1年以内の短期研修は不可、長期研修は応相談

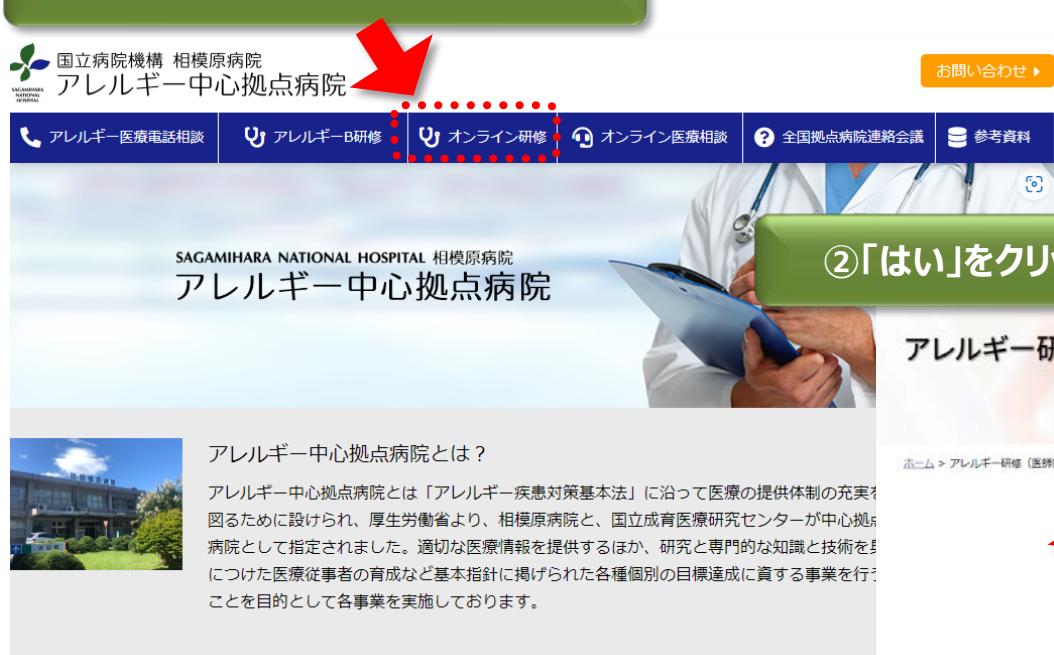
※応募者多数の場合は、さらに次年度に繰り越す場合あり

## C/D研修の実績：年度別新規研修者数



# オンライン動画研修：利用方法

①「オンライン研修」をクリック



②「はい」をクリック



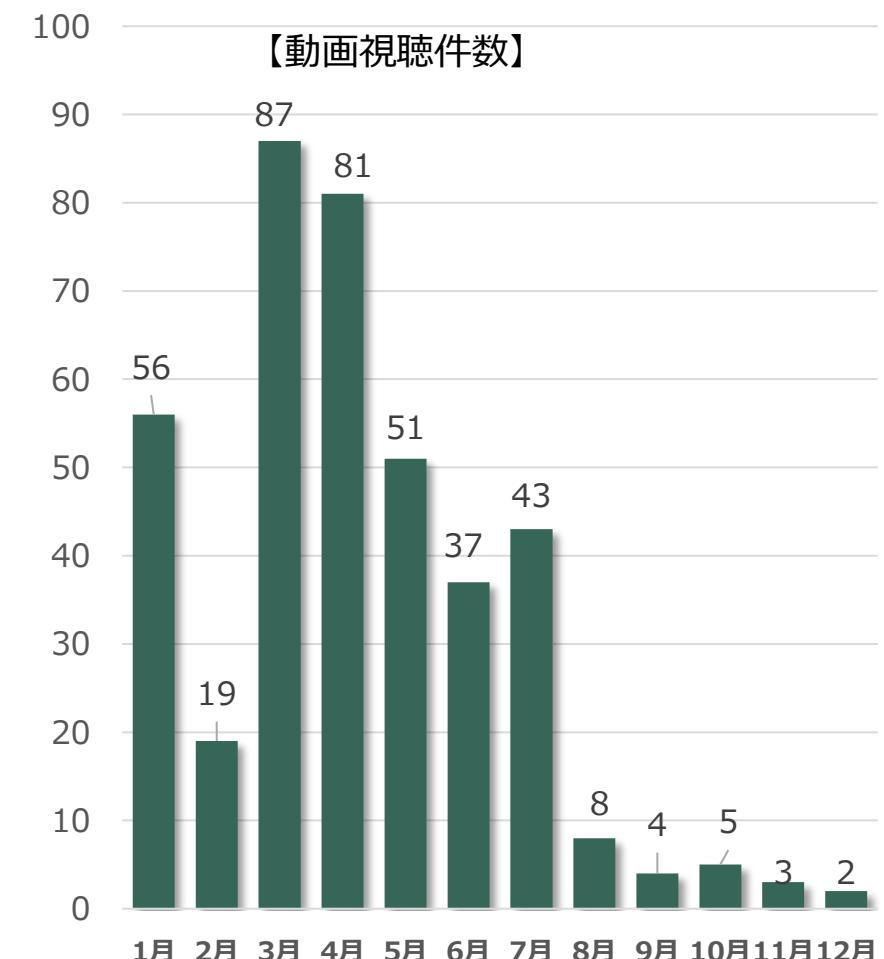
「相模原病院ホームページ」→「アレルギー中心拠点病院としての活動」から  
ホームページに入れます。

## オンライン動画研修

相模原病院医師による講義・手技を  
アレルギー中心拠点病ホームページより配信

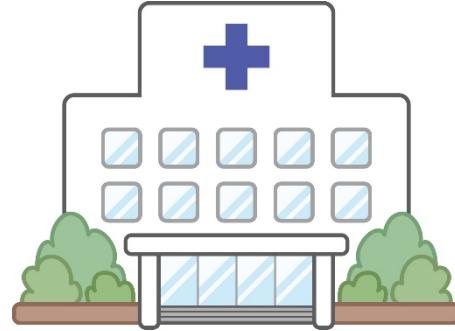
- 成人アレルギー領域
- 小児アレルギー領域
- 共通領域
- 各種検査
- 番外編

令和7年9月に小児領域9演目を再構成いたしました。今後、成人領域2演目も再構成予定です。



## オンライン医療相談 (D to D)

<アレルギー拠点病院>



拠点病院のご所属の  
先生方

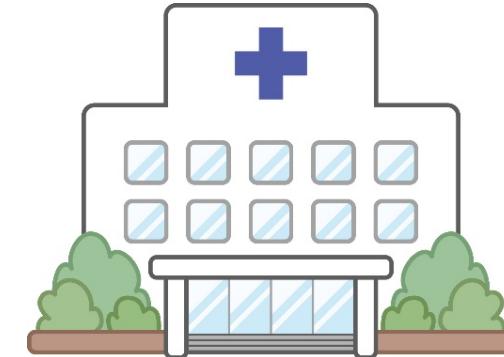
- ✓ 症例に関するご相談  
個々の症例の治療方針?  
診断方法?
- ✓ 検査・診療体制の構築  
に関するご相談



- ◇オンライン (web会議形式)
- ◇無料
- ◇何度でも可

2025年度 対応実績 3件

<相模原病院>



相模原病院の  
小児科・内科医師

# アレルギー医療電話相談

## 実施内容

受付日時：毎週火・水曜日（祝日・年末年始は除く）

10:00-12:00／13:00-15:00

電話対応者：小児アレルギーエデュケーターおよび

経験豊富な看護師が対応。

## 年間実績

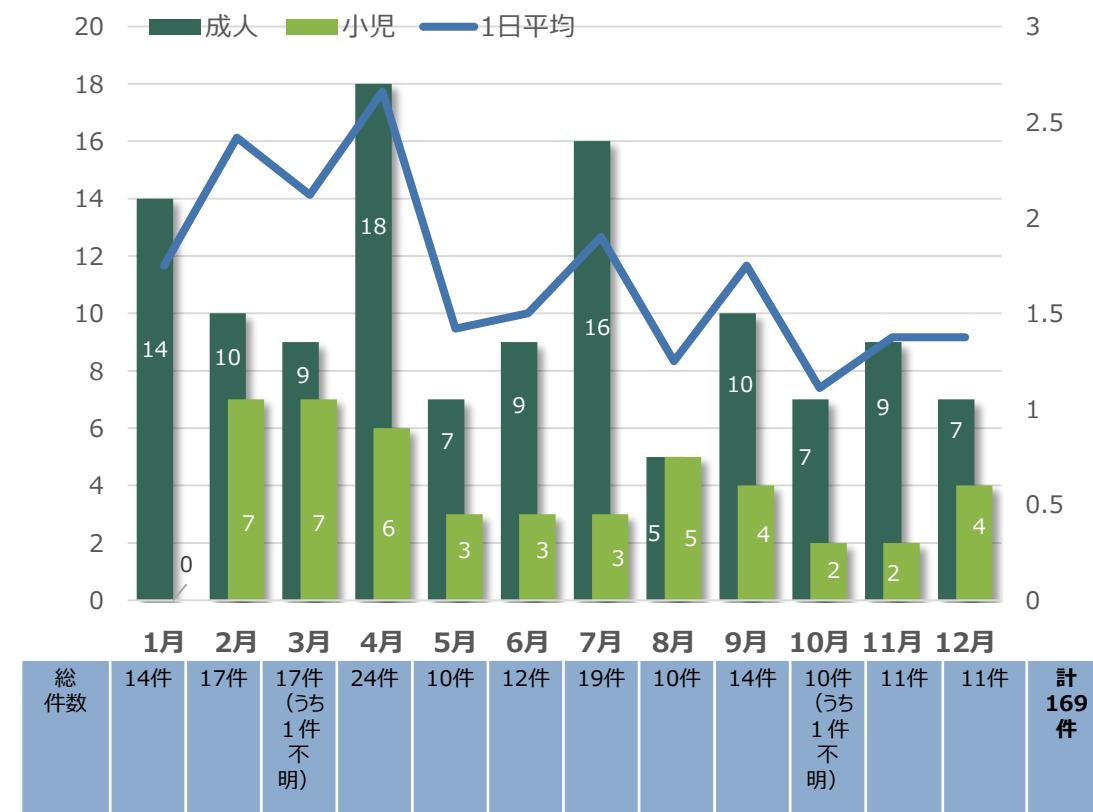
2025年1月～12月

### 年間相談件数

- 成人／121件
- 小児／46件
- 不明／2件
- 総件数／169件

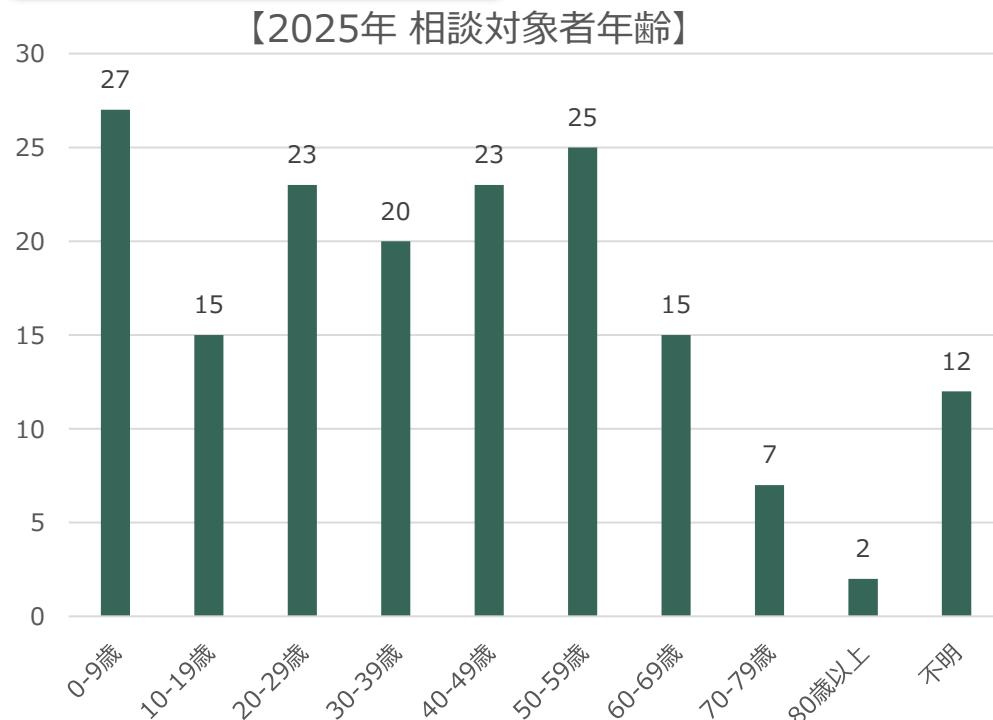
年間相談日数 98日

1日平均相談件数 1.724件

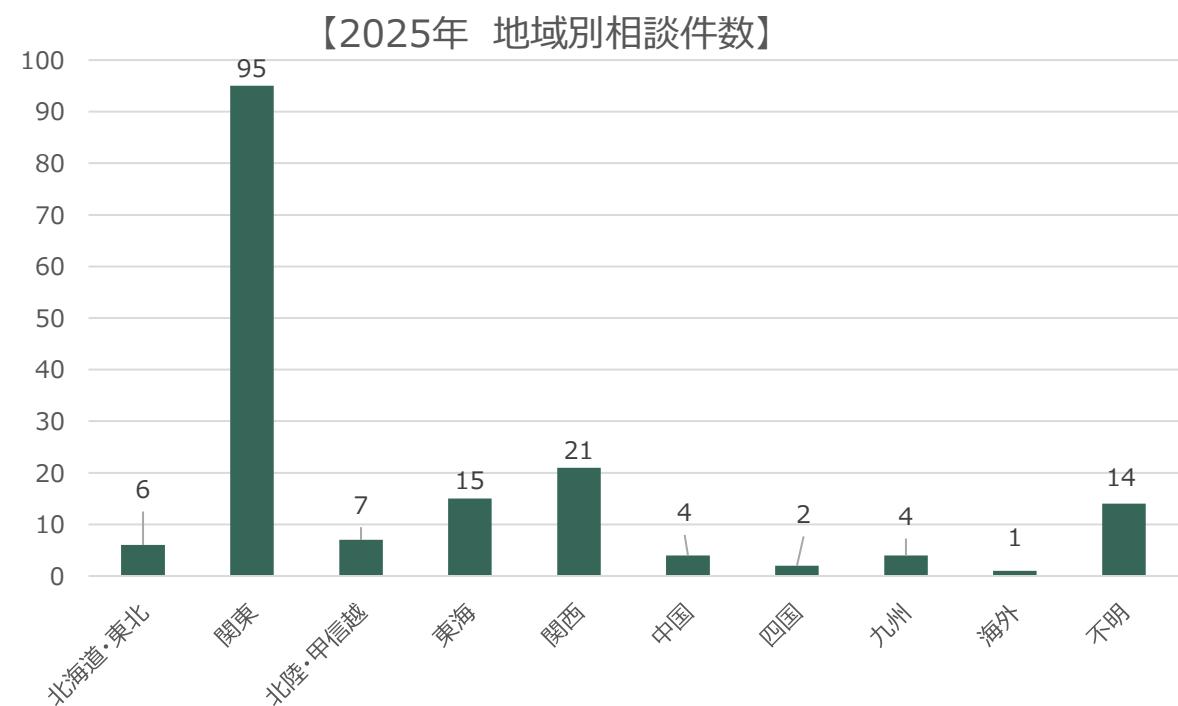


# アレルギー医療電話相談：2025年実績（1-12月）

## 相談対象者年齢



## 地域別相談件数



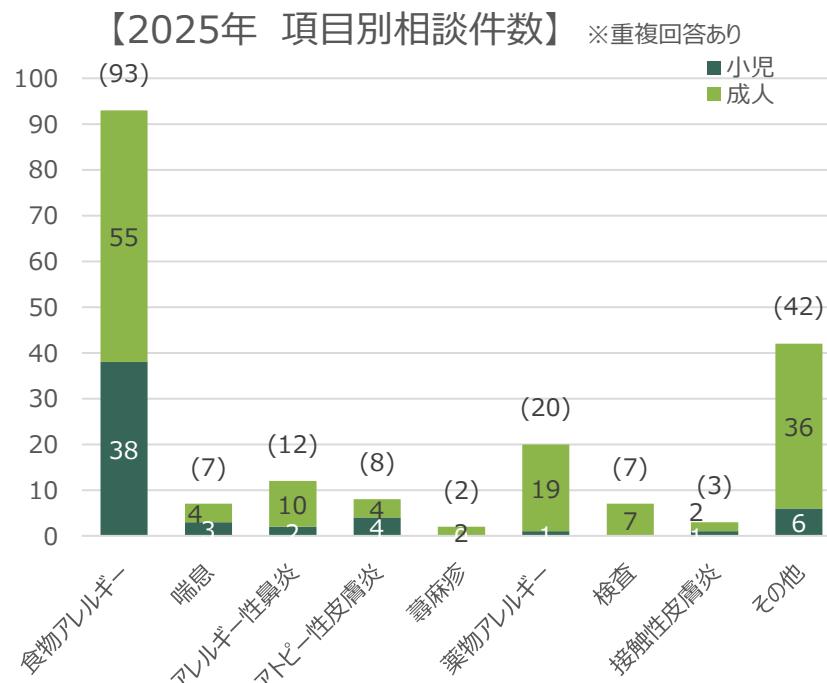
相談総件数 169件

# アレルギー医療電話相談：2025年実績（1-12月）

相談総件数169 件

## 疾患

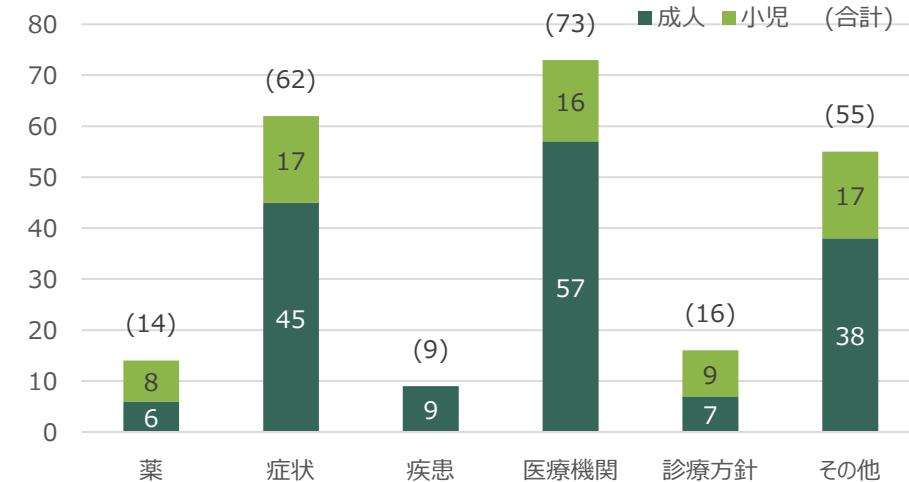
※重複あり  
のべ 194件



## 相談内容

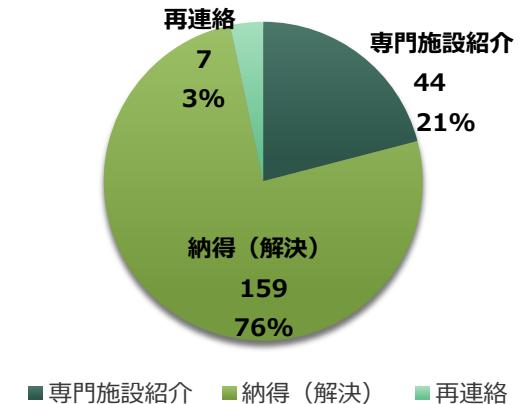
※重複あり  
のべ 229 件

【2025年 相談内容】 ※重複回答あり



## 相談結果

【相談結果】 ※重複回答あり



## 中心拠点-地方拠点 様々な事業連携

### 【宮崎県における取り組み】

#### ◇アレルギー専門外来のサポート

- ・月1回 中心拠点からアレルギー学会指導医・専門医の派遣

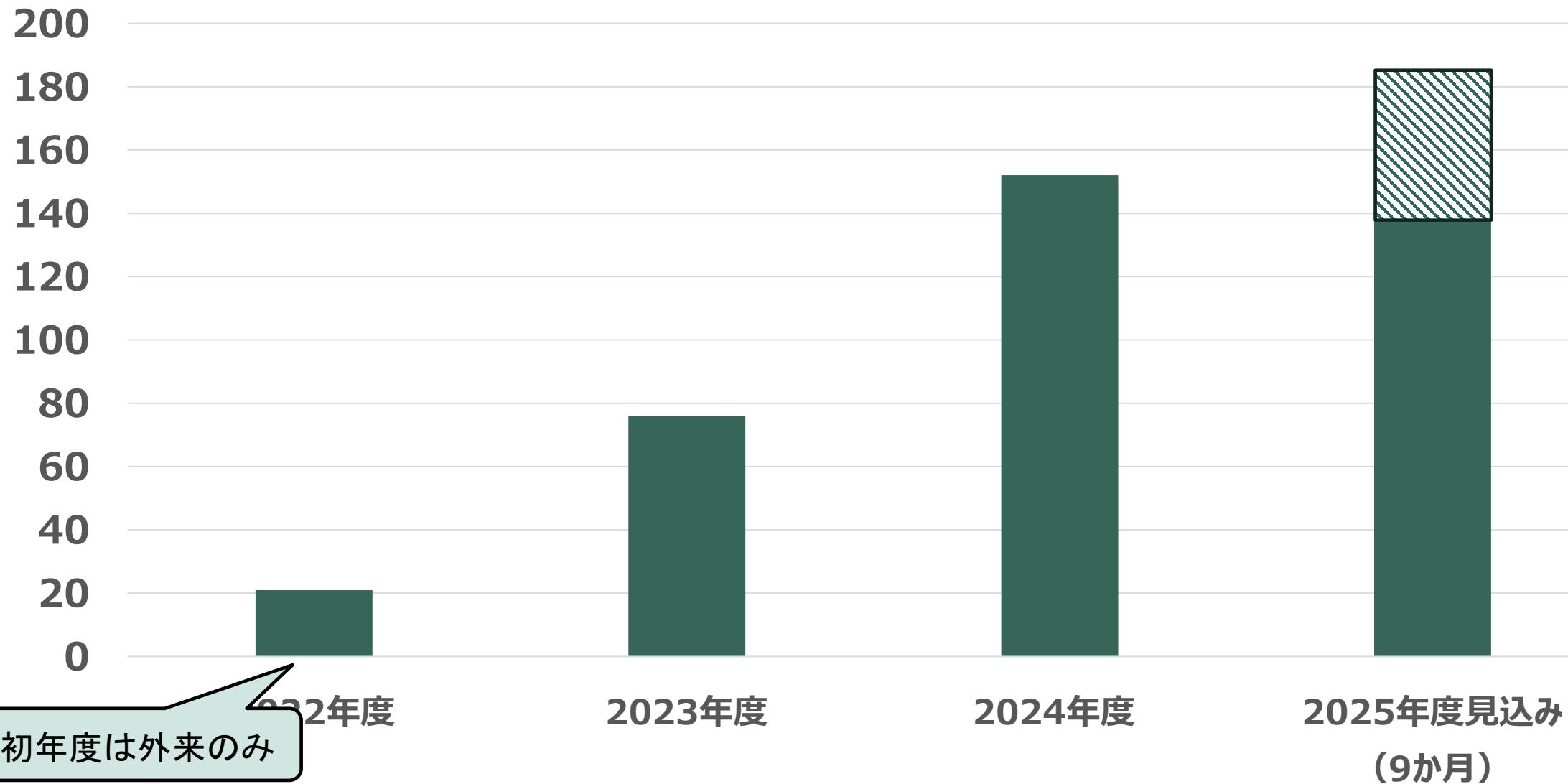
#### ◇アレルギー疾患に関する調査事業のサポート

- ・学校の食物アレルギー対策に関する調査
- ・食物経口負荷試験の実施状況調査

#### ◇人材育成・地域連携のサポート

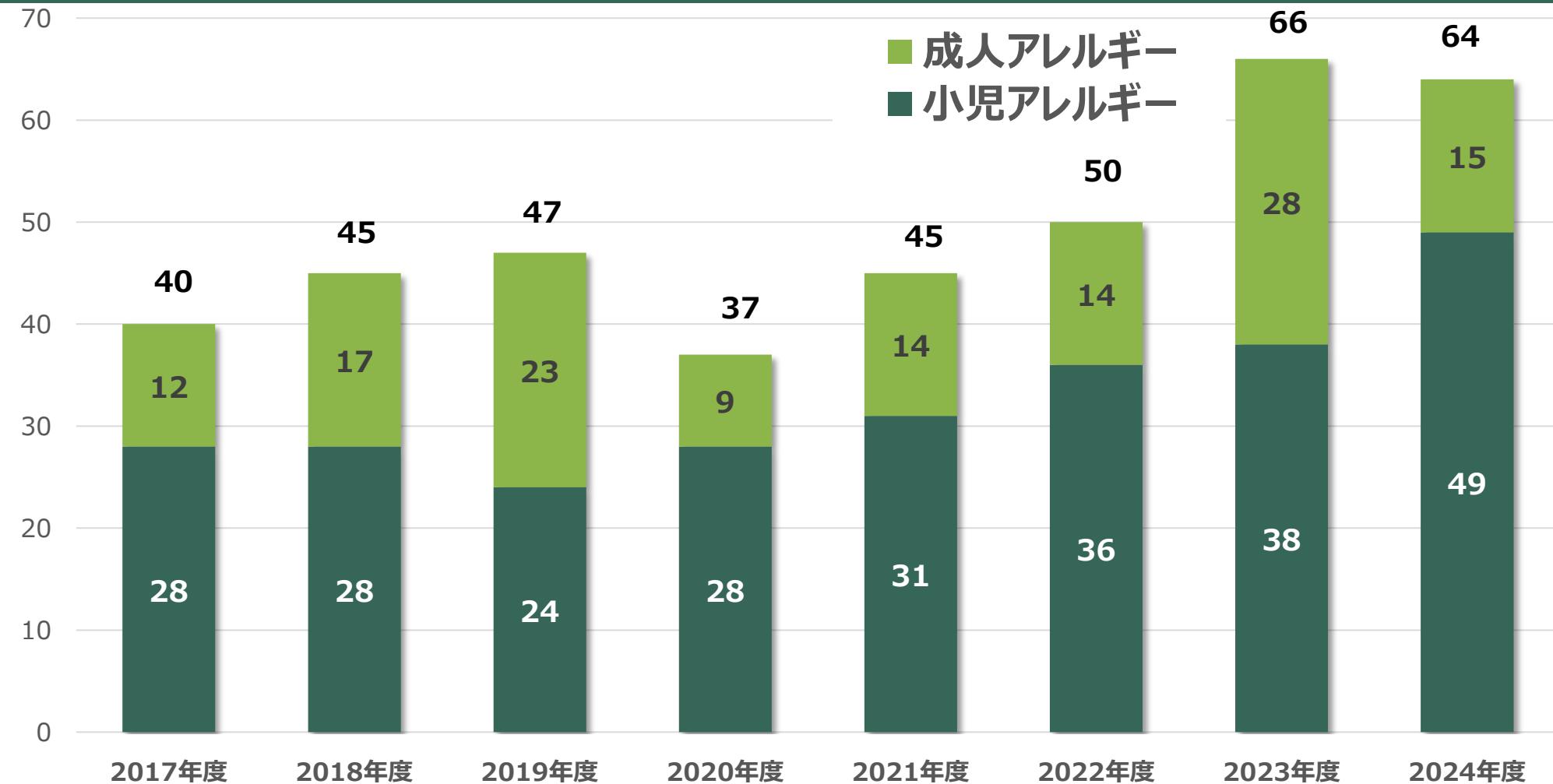
- ・宮崎小児アレルギー勉強会（年4回）・宮崎小児アレルギースキルアップセミナー（2026年1月）
- ・宮崎市教育委員会との連携（アレルギー対策）・市民向け講演会（情報発信）

## 食物アレルギー診療実績の変化：OFCの実施件数



# 研究実績

相模原病院 アレルギー関連 英文論文 掲載数（2017～2024年度）



# 都道府県拠点病院に対するアレルギー診療に関する調査

調査対象施設：都道府県アレルギー疾患医療拠点病院および中心拠点病院 計78施設 回答 60施設（回収率76.9%）

北海道	北海道大学病院	神奈川県	国立病院機構 相模原病院	愛知県	名古屋大学医学部附属病院	奈良県	奈良県立医科大学附属病院
青森県	弘前大学医学部附属病院	神奈川県	神奈川県立こども医療センター	愛知県	名古屋市立大学病院	和歌山県	日本赤十字社和歌山医療センター
岩手県	岩手医科大学附属病院	神奈川県	横浜市立みどり赤十字病院	愛知県	藤田医科大学病院	和歌山県	和歌山県立医科大学附属病院
岩手県	国立病院機構盛岡医療センター	新潟県	新潟大学医歯学総合病院	愛知県	藤田医科大学ばんたぬ病院	鳥取県	鳥取大学医学部附属病院
宮城県	東北大学病院	富山県	富山県立中央病院	愛知県	愛知医科大学病院	島根県	島根大学医学部附属病院
宮城県	宮城県立こども病院	富山県	富山大学附属病院	愛知県	あいち小児保健医療総合センター	岡山県	国立病院機構 南岡山医療センター
秋田県	秋田大学医学部附属病院	石川県	金沢大学附属病院	三重県	三重病院	岡山県	岡山大学病院
秋田県	社会医療法人明和会 中通総合病院	福井県	福井大学医学部附属病院	三重県	三重大学医学部附属病院	広島県	広島大学病院
山形県	山形大学医学部附属病院	山梨県	山梨大学医学部附属病院	滋賀県	滋賀医科大学医学部附属病院	山口県	山口大学医学部附属病院
福島県	福島県立医科大学附属病院	長野県	信州大学医学部附属病院	滋賀県	滋賀県立小児保健医療センター	徳島県	徳島大学病院
茨城県	筑波大学附属病院	長野県	長野県立こども病院	京都府	京都府立医科大学附属病院	香川県	香川県大学医学部附属病院
栃木県	獨協医科大学病院	岐阜県	岐阜大学医学部附属病院	京都府	京都大学医学部附属病院	愛媛県	愛媛大学医学部附属病院
群馬県	群馬大学医学部附属病院	静岡県	国際医療福祉大学熱海病院	大阪府	近畿大学医学部附属病院	高知県	高知大学医学部附属病院
埼玉県	埼玉医科大学病院	静岡県	順天堂大学医学部附属静岡病院	大阪府	大阪はびきの医療センター	福岡県	国立病院機構 福岡病院
千葉県	千葉大学医学部附属病院	静岡県	静岡県立総合病院	大阪府	日本赤十字社 大阪赤十字病院	佐賀県	佐賀大学医学部附属病院
東京都	東京慈恵会医科大学附属病院	静岡県	静岡県立こども病院	大阪府	関西医科大学附属病院	長崎県	長崎大学病院
東京都	国立成育医療研究センター	静岡県	静岡済生会総合病院	兵庫県	神戸大学医学部附属病院	熊本県	熊本大学病院
東京都	東京都立小児総合医療センター	静岡県	浜松医科大学医学部附属病院	兵庫県	兵庫医科大学病院	大分県	大分大学医学部附属病院
		静岡県	浜松医療センター	兵庫県	兵庫県立こども病院	宮崎県	宮崎大学医学部附属病院
				兵庫県	神戸市立医療センター中央市民病院	鹿児島県	鹿児島大学病院
						沖縄県	琉球大学病院

色付きセルは2/3時点で未回答の施設

# アレルギー疾患に関する医療提供状況

あなたの都道府県では拠点病院と連携する病院・診療所を含めた全体として、病診連携を含め以下の疾患の管理・検査・手技について患者へ適切な医療を提供できていますか？  
(ご自身が感じられている状況を10段階のスケール上にマーク)

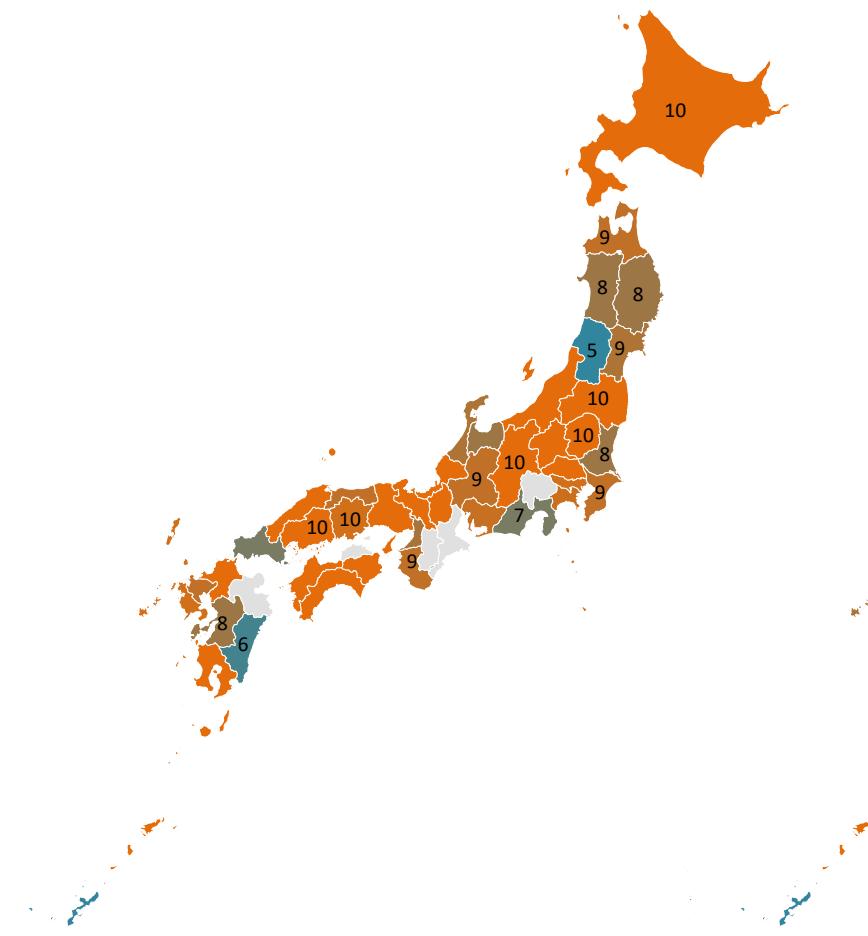
スケールのイメージ：

- 0（全く提供できていない）：該当する患者は他の都道府県へ紹介している
- 5（一定程度提供している）：年齢や合併症を理由に半数程度他の都道府県へ紹介している
- 10（十分提供できている）：診断から治療までのすべての診療が可能

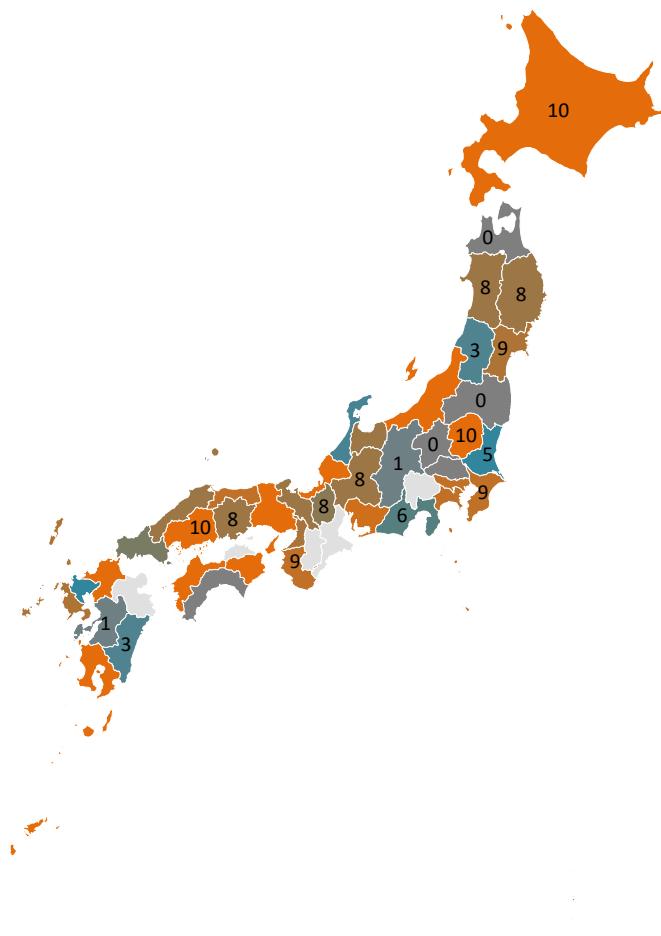
集計に際して

- 1施設から複数の回答があった場合：施設内の平均値とした
- 同一都道府県に複数の拠点病院がある場合：施設間の平均値とした
- 小児病院等で状況が把握できていない場合：未回答扱いとした

【小児の食物アレルギー】  
◆食物経口負荷試験の実施



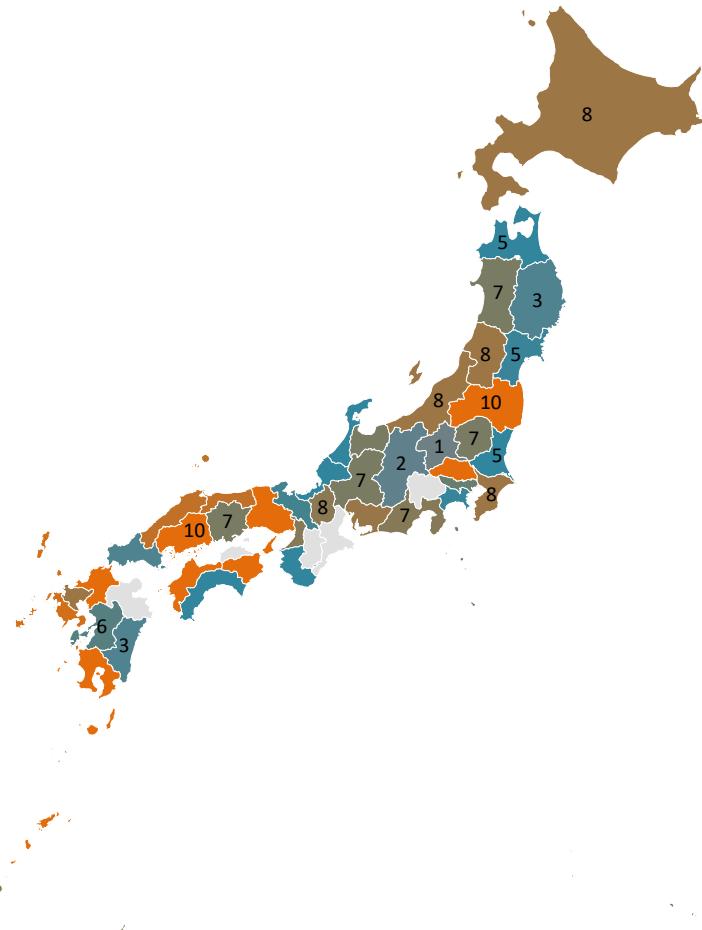
【小児の食物アレルギー】  
◆経口免疫療法の実施



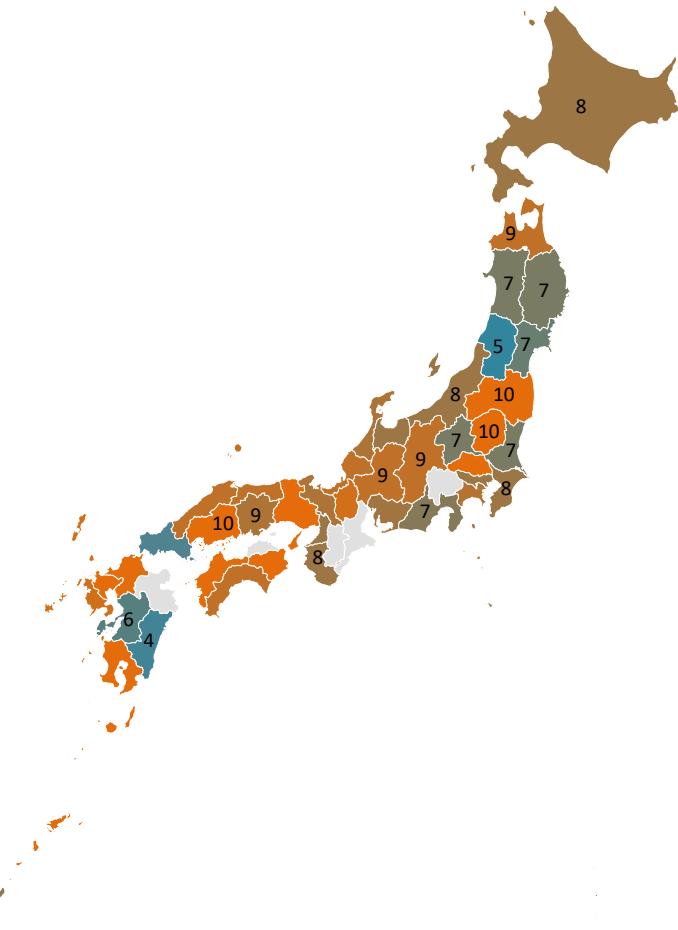
提供元: Bing  
© GeoNames, Microsoft, Zenrin



【成人の食物アレルギーへの対応  
(移行期を含む)】



【アナフィラキシーの原因検索・  
長期管理(FDEIAを含む)】



提供元: Bing  
© GeoNames, Microsoft, Zenrin

提供元: Bing  
© GeoNames, Microsoft, Zenrin



## お知らせ

- 2025年7月30日 成人食物アレルギー診療機関情報 公開のご案内
- 2025年7月23日 ニッポンハム食の未来財団 2026年度研究助成事業 公募のお知らせ
- 2025年2月10日 第25回食物アレルギー研究会 現地開催 終了のお礼／参加登録サイトシステムトラブルのお詫び
- 2024年12月17日 第25回食物アレルギー研究会 参加登録を開始しました
- 2024年12月2日 食物経口負荷試験実施施設一覧更新のご案内

»一覧

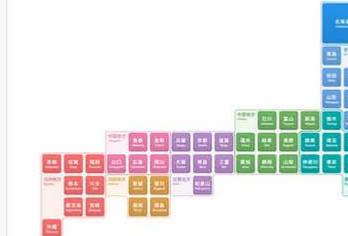
## 開催案内

第26回食物アレルギー研究会（現地：2026年2月15日(日) WEB：2月下旬）

▶ 資料

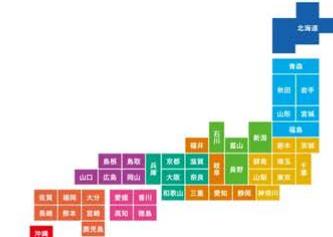
▶ 入会のご案内

食物経口負荷試験実施施設



実施施設一覧を見る

成人食物アレルギー診療機関情報



医療機関を探す

食物アレルギーの  
診療の手引き2023

<https://www.foodallergy.jp/>

## 食物経口負荷試験 実施施設一覧

トップページ > 食物経口負荷試験 実施施設一覧

### 【食物経口負荷試験をご希望される患者さんへ】

このサイトに掲載されている医療機関は、日本小児科学会専門医研修プログラム 基幹施設・連携施設の小児科を対象として行った調査に回答があり、掲載の許可があった施設です。

負荷試験を行っている施設は掲載の施設以外にも多数あります。

「外来負荷」「入院負荷」は2023年度（令和5年度）の外来または入院での食物経口負荷試験の実施症例数を示します。

※現時点の実施状況と異なる場合がございます。試験希望の場合は必ず各施設へお問い合わせください。

### エリア一覧

調べたいエリアをクリック



北海道エリア

東北エリア

関東エリア

中部エリア

近畿エリア

中国エリア

四国エリア

九州沖縄エリア

- ▶ 資料
- ▶ 入会のご案内

### 食物経口負荷試験実施施設



[実施施設一覧を見る](#)

### 成人食物アレルギー診療機関情報



[医療機関を探す](#)

### 食物アレルギーの診療の手引き2023



[食物経口負荷試験の手引き2023](#)



## 関東エリア

トップページ > 食物経口負荷試験 実施施設一覧 > 関東エリア

1,000件以上	501~1,000件	201~500件	101~200件	51~100件	1~50件	実施なし
★★★★★	☆☆☆	☆☆	☆	◎	○	—

症例数：2023年度（令和5年度）実績

施設名	外来負荷	入院負荷
茨城県		
総合病院土浦協同病院 小児科	○	○
茨城県立こども病院 小児アレルギー科	☆☆	☆
東京医科大学茨城医療センター 小児科	—	○
水戸済生会総合病院 小児科	○	
日立製作所ひたちなか総合病院 小児科	○	
日立総合病院 小児科	—	○
栃木県		
自治医科大学附属病院 小児科	◎	◎
獨協医科大学病院 小児科	☆☆☆	☆☆☆
JCHOうつのみや病院 小児科	—	○
芳賀赤十字病院 小児科	—	☆
新小山市民病院 小児科	—	◎
那須赤十字病院 小児科	○	◎
足利市立病院		

結果画面

現在掲載施設数：347施設（小児科のみ）

2025年10月

成人に対するOFCも含めて公開予定

## 成人食物アレルギー診療機関情報

トップページ > 成人食物アレルギー診療機関情報

### 成人の食物アレルギー患者を診療している医療機関を探す

成人の食物アレルギーをもつ患者様の検査・診療ができる病院・クリニックを探すことができます。

掲載されている医師は、一般社団法人 日本アレルギー学会の専門医または指導医です。

※本情報は、2025年5月に実施した調査に基づいて作成しています。

検索は都道府県単位です。

実施可能な検査・診療内容のボタンをクリックして色を反転後、検索ボタンを押して絞り込んでください。

キーワードの自由入力でも絞り込むことができます。

診療内容は施設や医師によって異なります。表を横にスクロールし、すべての項目を必ずご確認ください。

#### エリア一覧



※全国を対象に検索することも可能です

すべての地域	→	北海道エリア	+	東北エリア	+
関東エリア	+	中部エリア	+	近畿エリア	+
中国エリア	+	四国エリア	+	九州・沖縄エリア	+

- ▶ 資料
- ▶ 入会のご案内

#### 食物経口負荷試験実施施設



[実施施設一覧を見る](#)

#### 成人食物アレルギー診療機関情報



Web版  
[PDF/9MB]  
Q & A



食物アレルギーの  
栄養食事指導の手引き2022

## 成人食物アレルギー診療機関情報

トップページ > 成人食物アレルギー診療機関情報 > 検索結果

### 検索条件を指定

成人の食物アレルギーをもつ患者様の検査・診療ができる病院・クリニックを探すことができます。

掲載されている医師は、一般社団法人 日本アレルギー学会の専門医または指導医です。

※本情報は、2025年5月に実施した調査に基づいて作成しています。

検索は都道府県単位です。

実施可能な検査・診療内容のボタンをクリックして色を反転後、検索ボタンを押して絞り込んでください。

キーワードの自由入力でも絞り込むことができます。

診療内容は施設や医師によって異なります。表を横にスクロールし、すべての項目を必ずご確認ください。

#### 検査

- FDEIAの運動誘発試験 ● 皮膚テスト ● 血中特異的IgE抗体検査 ● 食物経口負荷試験

“成人年齢に達した小児期発症”の食物アレルギー患者に対して実施可能な診療内容

- An アナフィラキシーの救急対応 ● Epi エピペン処方 ● 繼 すでに導入されている経口免疫療法の継続

- 同 原因食物の同定 ● 摂 原因食物の安全摂取可能量の決定 ● OT 経口免疫療法の導入 ● 緊 緊急時対応の指導

“成人期発症”の食物アレルギー患者に対して実施可能な診療内容

- An アナフィラキシーの救急対応 ● Epi エピペン処方 ● 同 原因食物の同定 ● 摂 原因食物の安全摂取可能量の決定

- 緊 緊急時対応の指導

すべての地域	▼	キーワードを入力
--------	---	----------

[検索](#) [検索条件クリア](#)

『検索条件クリア』ボタンでは条件のみがリセットされます。  
リストは自動的に更新されないため、再度検索を実行して最新の結果を表示してください。

医師氏名	医療機関名	診療科	都道府県	市区町村・番地
濱川 靖子	やまみこどもクリニック	小児科	福島県	会津若松市山見二丁目8-8



## 1. 検索条件を指定

“年齢に達した小児期発症”の食物アレルギー患者に対して実施可能な診療内容

**An** アナフィラキシーの救急対応    **Epi** エピペン処方    **継** すでに導入されている経口免疫療法の継続

**同** 原因食物の同定    **摂** 原因食物の安全摂取可能量の決定    **OIT** 経口免疫療法の導入    **緊** 緊急時対応の指導

“成人期発症”の食物アレルギー患者に対して実施可能な診療内容

**An** アナフィラキシーの救急対応    **Epi** エピペン処方    **同** 原因食物の同定    **摂** 原因食物の安全摂取可能量の決定

**緊** 緊急時対応の指導

神奈川県    キーワードを入力

検索    検索条件クリア

## 2. 「検索」ボタンで検索

医師氏名	医療機関名	小児期発症患者診療内容	成人期発症患者診療内容
福富 友馬	国立病院機構 相模原病院	<b>緊</b> <b>OIT</b> <b>摂</b> <b>同</b> <b>継</b> <b>Epi</b> <b>An</b>	<b>An</b> <b>Epi</b> <b>緊</b> <b>摂</b> <b>同</b>
海老澤 元宏	国立病院機構 相模原病院	<b>Epi</b> <b>緊</b> <b>OIT</b> <b>摂</b> <b>同</b> <b>継</b> <b>An</b>	<b>緊</b> <b>摂</b> <b>同</b> <b>Epi</b> <b>An</b>

## 3. 検索結果が表示される

2025年4月30日 調査依頼  
対象者：

日本アレルギー学会指導医・専門医

配信数：4,825名

《内訳》

内科	2,124名
小児科	1,774名
皮膚科	483名
耳鼻咽喉科	422名
眼科	22名

2025年7月30日公開  
掲載医師数：693名

横にスクロールして情報を確認

## 掲載情報

医師氏名	医療機関名	診療科	都道府県	市区町村・番地
海老澤 元宏	国立病院機構 相模原病院	小児科・アレルギー科	神奈川県	相模原市南区桜台18-1

検査	小児期発症患者診療内容	成人期発症患者診療内容	受診方法
血 負 皮  運	緊 OIT 摂 同 繼  Epi An	同 緊 摂 Epi An	火曜・金曜の午前中

### 検査

運 FDEIAの運動誘発試験 皮 皮膚テスト 血 血中特異的IgE抗体検査 負 食物経口負荷試験

### “成人年齢に達した小児期発症”の食物アレルギー患者に対して実施可能な診療内容

An アナフィラキシーの救急対応 Epi エピペン処方 繼 すでに導入されている経口免疫療法の継続  
同 原因食物の同定 摂 原因食物の安全摂取可能量の決定 OIT 経口免疫療法の導入 緊 緊急時対応の指導

### “成人期発症”の食物アレルギー患者に対して実施可能な診療内容

An アナフィラキシーの救急対応 Epi エピペン処方 同 原因食物の同定 摂 原因食物の安全摂取可能量の決定  
緊 緊急時対応の指導

# アレルギー中心拠点病院としての活動の展望

## ●アレルギー疾患医療全国拠点病院連絡会議の開催

次年度も事務局として魅力ある会議を提供。

## ●研修の実施（A・B・C／オンライン）

B研修に関して拠点病院からの希望が少なく、対象を広げていくべきか要検討。

## ●医療相談の実施（医師向け／患者向け）

都道府県拠点病院と中心拠点病院の連携を推進。電話相談の在り方も時代の変化に伴い要検討（食物アレルギーが中心）。

## ●地方拠点病院の活性化

アレルギー専門医ゼロを解消という目的を達成しつつあるので宮崎県へ月1回の診療支援は実施次年度終了予定。

## ●臨床研究実績

引き続き世界に向けた研究業績積み上げる

## ●医療提供体制の課題（厚労科研）

全年齢をカバーできる食物アレルギーの医療体制の確立が急務。

## ●食物アレルギー研究会の運営

今後も情報発信機関として活動を推進していく。